

留学体験レポート

国際学部国際文化学科

山口風子 21015121

私は4カ月間、韓国ソウルにある慶熙大学の国際教育院で韓国語と韓国文化を学んできました。3週間のプログラムでは、一人の台湾の方を除き、全て日本人だったため、授業で分からないことがあると先生は時折日本語を交えながら説明して下さいました。10週間のプログラムでは、他大学から来た日本人数名を除き、スウェーデン、ロシア、タイ、サウジアラビア、香港、台湾、中国など国際色豊かなクラスになりました。年齢も文化も違うクラスメイトに最初は戸惑い、理解するのに時間がかかった部分もありましたが、皆韓国語の習得という目標に向かって努力する仲間だったため、次第に打ち解け、ご飯を食べに行ったり遊びに行ったりと、良い思い出をたくさん作ることが出来ました。

次に、食文化についてです。まず一つ目に、韓国では料理の殆どにコチュジャンが使われています。そのため留学当初は、お店で出て来る料理がどの程度辛いのか分からず、また言語に不慣れだったこともあり「辛くしないで下さい」とも言えずに我慢して辛い料理を食べていました。しかし、1か月も経つと辛さにも慣れ、友人と「ここのキムチ美味しいね」などと話すほどにもなりました。二つ目は料理のシェアについてです。韓国ではひとつの料理を皆でシェアして食べるのが当たり前です。もちろん、一人ひとつ食べる時もありますが、直接自分の使っているスプーンで皆も食べるチゲをつつく場合もあります。そのため、最初はかなり戸惑いました。私は、そういったスタイルの食べ方があまり得意ではなく、韓国人の友人やトウミとご飯に行くときは非常に緊張しました。一度、この文化を理解しておらず衝撃を受けたエピソードがあります。3週間の時のトウミが「韓国に来たのならピンス（韓国式かき氷）を食べなければいけない」と言うので韓国に来てまだ日の浅かった私は素直に、トウミとピンス屋さんに行きました。そこでマンゴーチーズピンスを注文して食べ始めたのですが、その時になって初めてピンスは共に自分のスプーンを使い、混ぜながら食べるものだと思い出しました。仕方なく、私側のみを食べ進めていたら「ピンスの正しい食べ方はそうではない」と言われ私の使っていたスプーンを取り上げられ、トウミのスプーンと二刀使いでピンスを混ぜ始めました。確かに、周りの韓国人は混ぜて食べている方が多く、食べ方自体は正しいのだとは思いましたが、突然の出来事に固まっただけ「ありがとうございます」と笑うしかありませんでした。しかし、殆ど初対面の私に対して、好意的に、積極的に韓国の文化を教えてくれたそのトウミには本当に感謝しています。楽しい思い出をたくさん作ってくれた国際教育院の先生方、友人、トウミ、全ての人にもう一度感謝を伝えたいです。